

登録コード	E6206900	開講年度	2026						
授業科目	重複障害教育総論				担当教員	宮地 弘一郎			
英文授業名	Introduction to special needs education for children with multiple disabilities				副担当				
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	1～4	
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	24E～
信大コンピテンシー	該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】			
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ								
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	特別支援学校に通う,あるいは在宅訪問教育を受ける重複障害児,地域校に通う医療的ケア児などの今日的課題を理解し,共生の理念に根ざした教育を実現する公共的使命感や倫理観			
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	特別支援学校学習指導要領に規定する「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の意義や各規定の適用を判断する際の基本的な考え方,およびカリキュラム・マネジメントについて理解している。また,重複障害のある子どもの教育活動を支え実現する上で不可欠な心理・生理・病理および指導法についての知識・技能を習得しており,個別の教育的ニーズに柔軟に対応できる。			
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働								
(3)全学横断特別教育プログラム									
(4)授業の概要	ダウン症候群など,病理的要因による障害幼児・児童・生徒の多くは重複障害を有している。この授業では,重複障害の多様性と制約要因の複雑さを理解し,個に応じた発達援助の視点や方法を習得する。具体的には下記の内容を扱う。 1) 重複障害の定義,教育課程,カリキュラム・マネジメント 2) 重複障害の心理・生理・病理と指導法 3) 重度重複障害の心理・生理・病理と指導法 また,医療の進歩により在宅生活や通学も可能となってきた児童生徒の教育的なニーズが年々高まっている。そのような児童生徒の教育における今日的課題や対応について考察する。								
(5)授業計画	全てオンデマンド方式で実施予定。 第1回 重複障害の定義,教育課程とカリキュラム・マネジメント【遠隔等】 第2回 重複障害の心理・生理・病理と指導法①重複障害の制約要因【遠隔等】 第3回 重複障害の心理・生理・病理と指導法②視覚・聴覚重複障害【遠隔等】 第4回 重複障害の心理・生理・病理と指導法③その他の重複障害【遠隔等】 第5回 重複障害の心理・生理・病理と指導法④超重症児・医療的ケア児の今日的課題【遠隔等】 第6回 重度重複障害の心理・生理・病理と指導法①制約要因と実態把握【遠隔等】 第7回 重度重複障害の心理・生理・病理と指導法②生理心理学的アプローチ【遠隔等】 授業アンケート <進め方> ・上記第1回～第7回のテーマを、を入門編、中級編、上級編のステップに分けて進めます。 入門編：①～⑦の基本的内容を概論的に網羅します。3.5コマ分程度の内容です。 中級編：主に重度重複障害児を中心に、指導視点、授業づくり、医療的ケアの多職種連携などの実際について紹介します。2コマ分程度の内容です。 上級編：生理心理学について解説した上で、主に行動反応を捉えにくい重複障害児への活用について事例を紹介します。2コマ分程度の内容です。 ・各回に課題があります。eALPS上でコンテンツを視聴し、課題を提出することで次の授業へ進むことができます。 ・初級編から順次、コンテンツを配信してゆきますが、各コンテンツには一定の受講期限があります（各コンテンツの配信時に提示します）。 ・受講期限を過ぎ、コンテンツ公開が終了した場合、次のステップに進むことができなくなります（不可となります）。 ・やむを得ない理由により受講期限までに受講できなかった場合は、規定に基づく申請を行い証拠の確認の上で補充対応を行います。 ・なお指定した補充方法を履行できなかった場合の再補充は行わない。								
(6)成績評価の方法	期末に行うテスト(60%)とレポート(40%)を総合して評価する。								
(7)成績評価の基準	・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可 重複障害, 重度重複障害それぞれの心理・病理・教育について,知識がある程度習得できていれば「水準にある」,十分に習得できていれば「やや上にある」,習得した知識の理解がある程度できていれば「かなり上にある」,知識が十分に習得できておりかつその理解が十分なレベルであれば「卓越している」								

(8)事前事後学習の内容	重複障害は、視覚障害や知的障害などの障害が重複した状態である。そのため、事前学習として「特別支援教育概論」または「特別支援教育特論」を受講しておくことが望ましい（並行しての受講でもよい）。 配布資料については授業外の時間に十分な予習・復習を行い、さらに授業で講義した内容やキーワードについて図書館等を活用して調べ学習を行い、知識の習得と内容の理解を図ること。なお本科目は、授業と授業時間外での自学自習とを合わせて45時間程度の学習を原則とする。
(9)履修上の注意	後期途中（11月頃）から授業を開始しますが、受講登録は、後期開始時の登録期間中に行ってください。また、各オンデマンド授業の開始案内等はeALPS上で行いますので、eALPSを定期的にチェックしてください。
(10)質問，相談への対応及び連絡先	履修および授業内容についての相談は宮地（miyaj@shinshu-u.ac.jp）まで。
【教科書】	特になし。資料を配布する。
【参考文献】	相羽大輔，& 河内清彦．(2010)．弱視学生に対する健常学生の交流抵抗感に及ぼす障害開示の効果について．特殊教育学研究，48(4)，263-273． 福島智監修，認定NPO法人東京盲ろう者友の会編著．指点字ガイドブック～盲ろう者と心をつなぐ～，読書工房，2012． 橋口瑤子，宮地弘一郎，& 関ひろみ．(2022)．重症心身障害児（者）における快/不快環境での瞬目変動．日本重症心身障害学会誌，47(3)，357-364． 宮地弘一郎，& 平野慎吾．(2019)．発達臨床のための生理心理学的アプローチ．児童心理学の進歩58．225-251． 宮地弘一郎．(2022)．超重症児への視覚的注意の指導とその生理心理学的評価．人間学研究/中部人間学会 編，21，93-100． 中村保和，& 川住隆一．(2007)．盲ろう児の余暇の過ごし方：保護者に対する質問紙調査を通して．特殊教育学研究，44(5)，301-313． 田ヶ谷雅夫．盲精薄児の指導—この子らに生きるよろこびを．明治図書，1973． 山口真美・金沢創．赤ちゃんの視覚と心の発達．東京大学出版会，2008．